

# 品質保証・製品安全

フロントローディング<sup>\*1</sup>を軸とした品質保証活動により、高品質で安全な「アルバック品質」でお客様の期待に応えることができるような取り組みをグローバルに展開しています。

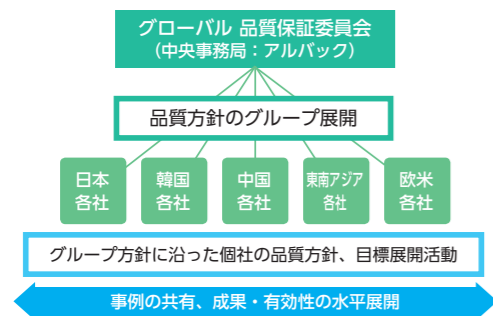
## アルバックグループ品質方針

- 「お客様の信頼は、品質の確保から」を基本スローガンに、
- フロントローディングで開発から営業、生産・サービスのすべてのプロセスで品質を作り込みながら世界ニーズを盛り込んだ商品・サービスを提供します
  - 一人ひとりが自ら行動・挑戦し、お客様の永遠のパートナーとして価値を創造します

## ISO9001/14001 グローバル統合認証

アルバックグループ38社は、2017年12月末に品質・環境マネジメントシステムの2015年版での統合認証を完了しました。グループ全体での品質方針の整合とともに、品質課題や改善をグローバルに水平展開する仕組みをとっています。

## 品質マネジメントシステム

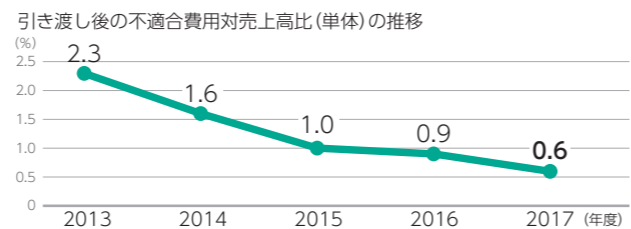


この体制のもと、フロントローディング、グループ統一規程の運用、内部監査の連携および共通資格制度（品質検査員、SA（セーフティアセッサ）<sup>\*2</sup>資格者）などをより一層推進し、グループ全体での品質システム運用により、さらなる品質向上に取り組んでいきます。

## フロントローディングによる品質向上

受注前の技術審査やシミュレーション、検証など、作業前のあらゆるリスク抽出と対策検討を行うことで、次工程

で不具合を発生させない「フロントローディング」をすべてのプロセスに展開し、品質の作りこみを推進しています。2017年度も、不適合を抑制し、品質を高め、利益の向上にも大きく寄与することができました。



## 製品安全活動

安心で安全なアルバックブランド製品を世界の市場にお届けするために、SA（セーフティアセッサ）資格者が製品安全リスクアセスメントを主導し、要求される安全品質を出発段階や製品出荷段階において検証する活動を続けています。近年、アジア地区における生産拡大に伴い、海外の生産拠点においても独立した検証体制を構築するべく、定期的な情報交流は元より、各地における集合教育や人材交流を重ねています。海外拠点に在籍する外国人SA資格者も活躍し始めています。今後も、製品安全活動をグループ一体となって推進し、顧客満足度の増進に繋げていきたいと考えています。



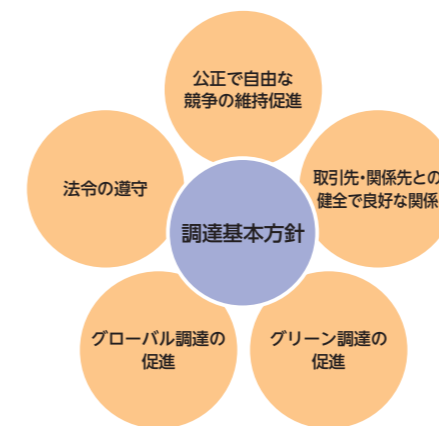
\*1 一般的に業務の初期工程（フロント）に負荷をかけ（ローディング）、作業を前倒しで進めることをいう。できるだけ早いうちに問題点を洗い出し品質をつくりこむ活動。  
\*2 SA (Safety Assessor) 資格とは、国際安全規格に基づく機会安全の知識、能力を有することを第三者認証する資格制度。

# 調達

サプライヤー様は、ものづくりを支える重要なパートナーです。コミュニケーションを図り、協力体制を尊重し、信頼関係を構築する取り組みを展開しています。

## 調達方針

「経営基本理念」「経営方針」に基づく調達活動を遂行するために、調達基本方針を定め、遵守、推進しています。



また、自社のみならずサプライチェーン全体で社会的責任を果たしていくため、環境・人権・労働・コンプライアンスなどに関するサプライヤー様への要望についても周知を行っています。

→詳細は <https://www.ulvac.co.jp/company/purchase/purchase2/>

## 大型化・量産化に応えられる「グローバル生産拠点」

ロジック向け半導体製造装置の量産化、G10.5やOLED向けFPD製造装置など大型化する装置への対応において、日本の九州と東北、海外では中国、韓国、台湾の生産拠点の周辺においては、アルバック本社と同等・同質のサプライチェーンを構築する活動を継続しています。これにより、顧客近傍の強みを活かし、生産拠点が主体となって現地調達・最適調達を行うことで、市況に対してフレキシブルかつ、グローバルな適地生産を目指します。

## サプライヤー様とのコミュニケーション

各事業部からタイムリーに生産計画を伝える「共栄会」を年に3回、アルバックの経営からビジネス環境や今後の見込みを直接説明する「業容説明会」を年1回開催しています。サプライヤー様と方針を共有し、信頼関係を深めるため、例えばそれぞれの事業における引合い状況から調達品の納期に落とし込んだ情報を提示するなど、きめ細かい対応を心がけています。

## Supply Chain Management

### アルバックのサプライチェーンマネジメント(SCM)改革

生産がグローバル化した現在では、材料や部品調達におけるリードタイム、コスト、要求仕様といった情報の正確性が厳しく求められます。適切な量、タイミングで材料を投入しなければ、サプライチェーンの中でモノの滞留が生まれ、サプライヤー様の不利益を招きかねません。これを回避するためにも、ITやデータを利用した調達の仕組みをより一層、整備していく必要があります。

アルバックの売上の大半を占める装置事業は、お客様のニーズに応える個別受注生産が多く、基本的に在庫を持ちませんが、サプライチェーン全体におけるモノの淀み・滞留を在庫と捉え、これを抑制するための指標を持ち、見える化していくことにより、サプライチェーンの全体最適を目指します。